

議題6(1)スケジュール(案)についての意見等	市の回答
<p>資料を送付していただきありがとうございました。スケジュールについては特に意見はありません。コロナ禍下、色々ご苦労されていると思いますが、各種計画を取りまとめていくことは、市政において重要だと思っておりますので、一委員として、委員会への出席でもテレワークでも、協力させていただきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。</p>	<p>市の回答無し</p>
<p>今後のスケジュールについては、問題ないかと思えます。ただ、委員が集まって質疑・応答などを持つ必要があることを希望する委員もいますので、時期を見て数回は開催する必要があると思われま</p>	
<p>議題6(2)実態調査報告書についての意見等</p>	<p>市の回答</p>
<p>高齢者実態調査の代表的意見の中に、サロン等話ができる場、相談できる場があるとありがたい、とあります。包括や在支の存在、認知症カフェや家族介護者教室等を何かの形で更にアピールできると、このような意見が出なくなってくるのではないかと考えます。</p>	<p>【介護福祉課】 介護者が相談できる場があることや包括、在支の存在など、まだ多くの方に周知が十分されていないことを認識しました。介護者がひとりで悩みを抱え込むことがないように、相談機関やカフェなどの情報を広報、HP、情報誌、その他効果的な周知方法を探り、周知に努めていきます。</p>
<p>知的障害の当事者にはアンケートに答えるスタートラインまでの距離が存在しています。そこには意見の形成支援やアンケート結果についてのフォローが必要ではないかと感じるところです。調査協力し放し(求めつ放し)ではなく、このことがどのように自分たちの生活改善につながっていく(現実問題として…つながっていない)のかが見えることで、アンケートの回答率も向上すると考えられます。また、当事者も繰り返し協力することで自分の考えに深まりや成長が期待できるようになると感じます(それが意思形成支援にもつながるのではないかと)。</p>	<p>【障害福祉課】 障害者生活実態調査は次期障害福祉計画等の策定のための参考としており、知的障害者では約31%が本人による回答で、約66%が本人以外の回答となっており、調査結果及び障害福祉計画等は市のホームページで公開しております。 また、毎年度作成する実施計画書(予算説明書)に事業概要を掲載し、新たな事業や改善して取り組む場合は、その旨を記載しており、ホームページで公開していますが、御意見のとおり対応が必要な部分もあるかと思えます。意見の形成支援やアンケート結果についてのフォローにつきましては、委員の皆様から御意見をいただきながら良い方法を模索していけたらと思えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援者の1人暮らしの割合が高い。外出も少なく、地域活動につなげることが必要である。</li> <li>・介護・介助になった理由は衰弱が多い。ロコモ対策などをすすめる必要がある(要支援者は転倒に対する心配も多い)。</li> <li>・外出なし、趣味なし、生きがいなし(幸せの度合い)などの関連はどうか。</li> <li>・今日が何月何日かわからない人の割合は他と比べてどうか。</li> <li>・幸せの程度とゆううつな気持ちの関連は、心の健康づくりや自殺対策と連携必要。</li> <li>・歩道のバリアフリーをすすめる必要がある。</li> <li>・認知症の割合高く、介護者の不安も高く対策が必要である。</li> </ul>	<p>【介護福祉課】 要介護状態になる原因に多い、転倒・骨折は、足腰の筋肉を鍛えることである程度防ぐことが可能と言われており、また、人と交流することや趣味や、役割持って暮らすことは介護予防に効果的と言われています。 これらの介護予防事業の推進は現計画においても推進することとなっており、市では転倒予防や、筋力向上を目的とした介護予防教室、生きがい活動や身近な場所での活動支援など、様々な介護予防事業に取り組んでまいりました。 地域包括ケアシステムの推進のために介護予防施策は、大変重要でございますのでフレイル予防や認知症施策と共に次期計画に反映していきたいと考えております。</p>

<p>② 高齢者・障害者の実態調査については、</p> <p>1) 高齢者の転倒問題についての詳しい調査の必要性についての意見</p> <p>2) 認知症対策(オレンジカフェへの場所の確保や増加、財政支援など)、迷い人対策など施策への意見もあり、介護福祉課との話し合いの必要性もありますね。</p> <p>3) 今回の実態調査に新型コロナウイルス発生以後の日常生活への対応が反映されていないと思います。各委員の中に今後の新たなコロナとの共存した生活づくりへの対策について話し合う必要性を訴えている方もいますので、高齢者・障害者対策についても今後の課題に上げる必要があると考えます。</p> <p>4) 知的障害者への質問の仕方や回答への動機づけなどに触れた質問ができていますが、今後の調査方法について生かせるような回答が必要かと思えます。</p> <p>5) グループホームへの利用に対応できるようになっているかについては、身体障がい、精神障がい、高齢認知者別にまとめておく必要があります。</p> <p>6) 高齢単身者、高齢者世帯、介護を必要とする世帯など、介護者と介護する者との問題や課題を、この調査からどう政策に反映させるのかも課題として挙がっています。</p>	<p>【介護福祉課】</p> <p>1) 高齢者が転倒されると骨折し介護が必要となる場合がありますので、転倒の予防は重要だと考えております。外出自粛となり運動不足も心配されますので、転倒の予防も含めたフレイル対策を今後も工夫して実施したいと考えております。</p> <p>【福祉保健部】</p> <p>3) 現在、専門家の方々がこのウイルスの研究や把握に努めている段階ですので、現時点での認識となりますが、治療薬やワクチンが開発されますと、インフルエンザと同様の認識となり、生活もある程度元に戻ると思われます。</p> <p>また、介護や医療の現場においては、AIやロボット、インターネットを活用した取組が増えていくことも予想されます。</p> <p>一方で、高齢者、障害者をはじめ誰もが、これらの利便性を享受しながらも、地域の中で活動やつながりによって生きがいや幸せを得られるということには変わりはないと考えております。このため、各計画の方針は変更となるものではなく、その手段の選択肢が広がるもので、次期計画に感染症による影響は少ないと考えております。</p>
<p>・週1回以上外出している方が80%以上あるので、いい事と思う。</p> <p>・グループホームは障害者の方(適応の方)が希望すれば入所できるのでしょうか(充分確保されていますか?)。</p>	<p>【障害福祉課】</p> <p>グループホームへの入居を希望する方がいる場合、ケースワーカーがその必要性等を判断した上で調整を進めることとなります。</p> <p>なお、福生市の令和2年6月1日現在のグループホーム利用者68人に対して、市内のグループホームの定員合計は107人でございます。</p>
<p>要支援者、要介護者、障害者はもちろんそれぞれ大変ですが、その方々の介護を働きながら行うことの大変さを改めて思い知りました。少しでも改善される方策が必要と思えます。</p>	<p>【介護福祉課】</p> <p>「主な介護者の就労の継続」の設問(66ページ)において「問題なく続けていける」と回答した方は約2割のみで、働きながら介護を続けていく上で問題を抱える介護者が多くいます。介護者がひとりで悩みを抱え込むことがないように、相談機関やカフェなどの情報を広報、HP、情報誌、その他効果的な周知方法を探り、周知に努めていきます。</p>

<p>1) 一般高齢者の転倒について、「何度もある」、「一度ある」と答えた方が、約23%おられます。どこで転倒したのか不明ですが、結構大きな数値なので、今後の調査にて、転倒場所、時間帯などより詳しい情報を得て、介護予防、転倒予防の施策に反映した方が良いと思います。またコロナ禍にて、家に閉じこもっていたと思われるので、追加(半年から1年後)で、感染症対策後の情報として、100件でも良いと思いますので、追加で調査をした方が良いと思います。内容は「今回のコロナ禍で困った事がありましたか、あれば内容を記載」で良いと思います。</p> <p>2) 障害者についてもコロナ禍での影響を追加(抽出方式)で聞いた方が良いと思います。</p> <p>3) 認知症(MCI)について、「物忘れが多いと感じる」36%、「日付がわからない時がある」24%、の数値が気になります。認知症の予防面から、今回のコロナ禍はかなりの逆風かと思えます。何かコロナ禍中、後でも対応できる様検討が必要かと思えます。すでにオレンジカフェを開催する際、市の方で経費の一部支援をされカフェを増やそうと考えておられると思えます。感染症対策を考慮して、より少人数(10人以下)での簡易カフェなども検討の余地があるかもしれません。</p>	<p>【介護福祉課】</p> <p>1) 高齢者が転倒されると骨折し介護が必要となる場合がありますので、転倒の予防は重要だと考えております。外出自粛となり運動不足も心配されますので、転倒の予防も含めたフレイル対策を今後も工夫して実施したいと考えております。なお、追加調査につきましては、現在のところ実施の予定はございませんので御了承ください。</p> <p>3) 認知症の方や家族にとって、この自粛生活は様々な我慢を強いられていると思います。認知症カフェや家族交流の場は、一刻も早い再開が望まれます。市内の認知症カフェでは、活動の再開の準備も始まっており、「新しい生活様式」の中で開催できる方法に形を変えて実施を試みます。</p> <p>【社会福祉課】</p> <p>御意見いただきました件につきましては、課題として認識し、次期計画の施策に反映できますよう検討してまいります。あいにくですが、追加調査の予定はございませんので御了承くださいますようお願いいたします。</p>
<p>介護、介助が必要となった主原因で、糖尿病が2位となっていることを知り、自身も通院中のため重く受け止めています(この病には合併症が多いので危険)。幸い市では体育館3館あり、体操教室なども多く開かれており、気軽に参加、利用できることも良いことですが、ストレスも原因の一つだそうで、外に出られない方もテレビなどの病の付き合い方の番組も利用できると、減少につながることでしょう。</p>	<p>【介護福祉課】</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策により生活状況が変化し、多くの方が人との関わりや活動が減少してしまいました。各自が自宅で身体機能維持に取り組むことの重要性や、自宅で取り組むためのツールが色々な所で発信されており、少しずつ広がっています。「新しい生活様式」に合わせた、フレイル予防の普及啓発が今後も重要になり、工夫して対応していきたいと考えております。</p>

<p>前回と比べて変化があった結果が知りたい。第1期から5期まで、具体的な取り組みをしたうえで、データにどのような変化があったのか。変化がなければ、何が足りなかったのか。</p>	<p><b>【障害福祉課】</b>      前回の生活実態調査と比べて変化があった主なものですが、問16の「現在、利用しているサービス量は充分だと思いますか。」は、「充分である」との回答が前回調査の12.1%に対して26.5%と上昇しております。例えば、平成27年度の障害児通所支援の支給決定者数は48人、延べ利用日数は3,898日に対して、令和元年度は支給決定者数86人、延べ利用日数は9,252日と利用が拡大しております。その他の多くのサービスにおいて利用が拡大していることから、調査結果に表れたと考えられます。</p> <p>また、問18の「障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。」は、「特になし」との回答が身体障害者では前回調査45.6%に対して74.7%と上昇しております。知的、精神、難病においても同様に上昇しております。これは、障害者差別解消法が施行されたことや、これに伴い障害者差別解消及び障害者理解促進の取り組みが進められたことによるものと考えられます。</p> <p><b>【介護福祉課】</b>      高齢者生活実態調査の前回からの変化は、要介護認定がある方の介護者の「仕事と介護の両立」についての設問です(65ページ)。「自営業・フリーランスのため勤め先はない」の回答が6.9%から23.1%に伸びております。</p> <p>介護保険事業計画は3年毎に策定しており、地域の実情に合わせて課題を検討しております。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続をすることができるように引き続き「地域包括ケアシステム」の深化が課題となっています。</p> <p><b>【社会福祉課】</b>      毎年、各計画に則りながら事業を執行し、進捗管理及び点検・評価、改善・見直しをPDCAサイクルに沿って実践しております。しかしながら、調査結果は市民の方の生活状況等の実態を表しておりますので、調査結果を参考にして次期計画に反映してまいります。また、調査結果に変化がない質問では、課題ととらえ、委員の皆様にご意見をいただき、実施にあたりましては、施策や事業の選択と集中により充実に努めてまいります。</p>
---	--

議題7 その他 について	市の回答
<p>施設生活者にとって、地域とのつながりを大切にしていこうとする流れが確かにあります。一方で、そもそもの地域像について、入所者や当事者以外にとっても「地域」「自分らしく暮らす」などが、どの程度イメージできているのか(個人的にも生活者として見えておらず)心もとないところです。標榜されていることが巧言令色にならぬよう、目指していく共生社会についての根本的な議論が必要に感じます。</p>	<p>【障害福祉課】 第5期障害福祉計画等は「安心・健やかに暮らせる 人にやさしいノーマライゼーション社会の実現」を基本理念に策定いたしました。引き続き目指していく共生社会について委員の皆様から御意見をいただきながら第6期障害福祉計画等の策定を進めてまいりたいと思います。</p>
<p>私より、“子供を育てるのは福生市で”案が出来ないでしょうか。</p>	<p>【社会福祉課】 子どもの健全育成に関する施策全般については「福生市子ども・子育て支援事業計画」を「福生市子ども・子育て審議会」において審議し、令和2年度から5年間の計画を今年3月に策定しています。</p>
<p>障害児の状況や課題はどうか？障害のサービスは前計画より向上しているのか？意見に対応必要では。サービスの質や量についてが多い。</p>	<p>【障害福祉課】 前計画の第4期障害福祉計画等の初年度である平成27年度の障害児通所支援費の当初予算額は約3千万円でしたが、令和2年度は約1億1千万円に増加しております。放課後等デイサービスの事業所数は、平成27年度当初は市内に3か所でしたが、令和2年度当初は6か所となっております。支給決定者数は平成27年度は36人でしたが、令和2年度は63人となっております。 また、平成27年度の障害者福祉費の当初予算額は約12億3千万円でしたが、令和2年度は約15億6千万円となっており、3億3千万円増加(約27%増)しており、福祉サービスの充実が図られておりますが、一方でサービス量の適正化を図ることで、予算増を抑制することも課題となっております。 サービスの質につきましては、日中活動系サービス、共同生活援助、短期入所等は3年に1回第三者評価を実施することになっている他、数年ごとに東京都による指導検査が行われております。 サービスの量につきましては、本人の希望を聞いた上で、相談支援専門員や市のケースワーカーが専門的かつ客観的に判断をしております。また、生活実態調査においては、サービス量について「充分である」との回答が上昇しております。</p>
<p>最近尋ね人の市内有線が増えております。市内が意識し協力して、速やかに発見できることは大変良いことです。</p>	
<p>バリアフリーは駅、会館などエレベーターも設置済みが多く見られますが、床や道路の段差は多く、健常者では気づかない多くの不便さがあることでしょうが、今後しっかり学びたいと思います。</p>	

<p>1) 感染症対策が気になります。今後も、グローバル化により、より危険な感染症が来訪する可能性は、想定しなければならないと思います。</p> <p>2) コロナ禍中・後にて、生活様式が変わり、高齢者・障害者の各種計画において、配慮が必要になると思います。例えば生活必需品、感染症予防に関する用品の購入での困窮者対策、高齢者の介護予防(自宅でのセルフ運動対策等)、追加にて、抽出方式で調査をした方が良いと思います。自宅でできる簡単体操、高齢者と孫の元気体操、親子での元気対応など、ふくふく体操使えんと思います。(自宅自粛へのアレンジをしても良いかと思ひますし、多摩ケーブルテレビとのコラボも良いかもしれません)</p> <p>3) 医療、福祉関係について、都心と比較すれば、感染者は少なかつたとは思ひますが、今回かなり苦勞されていると思ひます。発熱外来をどうするのか、隔離をどうするのか、市民への情報提供と啓発をどうするのか、介護においてどの様な問題があつたか、医療・介護への先を見据えた支援(金銭的、人的など)、この機会に、医療・福祉関係者との連絡會議をしていただければと思ひます。行政、市民、医療、福祉の連携と情報共有は重要だと思ひます。やはり最悪の状況を想定した上で、色々な対応(少しでも安全な方向を選択する事が重要ですが、できなくても検討した事の記録を残す必要ありです)をするべきところで、今回は反省点があると思ひます。市単位でもできることがあると思ひます。</p>	<p><b>【社会福祉課】</b>      新型コロナウイルス感染症対策についても、次期計画に可能な範囲で反映できるよう努めてまいります。</p> <p><b>【障害福祉課】【介護福祉課】</b>      新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関する取り組みといたしましては、市内の障害福祉サービス事業所にマスクを合計で約58,000枚配布いたしました。また、市内の介護事業にはマスクを約50,200枚配布しました。</p> <p>事業所の利用者及び職員の方が利用したり、備蓄したりするためのものです。また、手指用消毒液は国による優先購入の案内を事業所へ周知いたしました。いずれの事業所においても、国等から示されている通知等に基づき、事業所の運営及び利用者への指導等を行っております。</p> <p>緊急事態宣言が出されてからは、新型コロナウイルス感染症の感染を恐れて通所を控える利用者もおりましたが、希望に応じて事業所の職員が1日2回電話による心身の状況確認や必要な指導等を行う在宅支援を実施いたしました。</p> <p><b>【介護福祉課】</b>      2) ふくふく福生体操を市民の方に利用していただくため、福生市役所1階ロービーや多摩ケーブルネットワークの無料チャンネルにて御覧いただけることを市の広報で周知いたしました。更に、福生市ホームページに動画を掲載しておりますので、御活用いただきたいと考えております。</p> <p><b>【福祉保健部】</b>      3) 各社会福祉施設や事業所においては感染防止に務めていただき、現在のところ市内においては感染者は出ておりません。しかしながら、日々不安を抱えながらご対応されていると思ひます。現在、西多摩保健所、西多摩医師会、福祉施設・事業所の代表と行政の四者による連絡會を開催し、対策の連携を図れるように努めております。</p> <p>なお、感染の疑いがある方には、検査の流れに従い検査となりますが、現在はPCR検査を実施できる機関等については、風評被害や、また感染者者を特定しようとするなどの行動にもつながりかねないため、公表することができません。このため、情報共有が図れていないように感じられると思ひますが、皆様が安心できるような視点で考えることが重要だと認識しております。</p>
--	--

自由意見	市の回答
新型コロナウイルス関係の件、考えないといけないのでは。	【社会福祉課】 新型コロナウイルス感染症対策についても、次期計画に可能な範囲で反映できるよう努めてまいります。
本会は扱う計画が多いので会の進行を、何の計画については前年度の評価はこれで、課題は何、今期計画ではこの点をすすめたい、と情報を整理し、論点を明確にしてすすめてほしい。意見についても、各委員の背景をふまえ、何についてはどうか、と促すよう進行してはどうか。	【社会福祉課】 御意見をいただきましたとおり、本年度は4つの計画改定があります。事務局側としても、可能な限り課題と論点を整理し、進行に努めてまいります。
難しい問題が山積しておりますが、委員会として市民に役立つ答申ができることを願っています。	
この度、福生市地域福祉推進委員を仰せつかりましたが、私もとうとう高齢になってしまい思考力も弱くなっておりますが、どうか多めに見守っていただけましたら幸いです。よろしくお願い致します。	
介護離職しないためのサポート体制や、障害の多様化や介護する側も要支援者だったり問題が重複し、1つの制度、1つの職種だけでは対応できない事案も増えている。公的な支援の拡充も大切ですが、自分がどう生きたいか、生活したいかを住民も真剣に考えて、本当のACPが福生に根づくの良いと考えます。今回の新型コロナで生活様式も変わりました。計画策定もこれからの実践の基礎となるものなので、フレキシブルに対応できるようなものになるとよいなと思いました。	【社会福祉課】 御意見をいただきましたとおり、“本当の※ACPが福生に根づく”ように、次期計画の策定に取り組んでまいります。また、新型コロナウイルス感染症につきましては、議題6(2)に記載のとおりです。 ※ACPとは(アドバンス・ケア・プランニングの略)将来の変化に備え、将来の医療やケアについて、患者さんを主体に、その家族や親しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのこと。
地域福祉の推進には、住民による主体的な活動と、行政や民間の多様な主体が協働しながらそれぞれの役割を果たしていくのが大切だと思います。実態調査等を用いて地域の課題やニーズを発見したならば、それを受け止め、地域資源へつなぎ、具体的な解決へ導く人材が必要です。地域福祉推進の専門職(指導者)となる人材の養成・育成を御検討いただければと思います。	【社会福祉課】 御意見をいただきましたとおり、“地域福祉の推進には、住民による主体的な活動と、行政や民間の多様な主体の協働”が大切であり、“地域福祉推進の専門職(指導者)となる人材の養成・育成”も次期計画に反映できるよう検討してまいります。

委員会に関わっておられる職員の皆さん、大変ご苦勞様です。今回は、コロナ関係の記載が多くなってしまいました。しかし、皆さんや市民が、色々と苦勞をした面、これを将来の修正点(生活改善)にすべく、動くチャンスだと思っております。委員会について、やはり双方向での意見を交わす機会は欲しいと思っております。何度か一度は委員の皆さん、市の職員さんが集まって会を開催できればと思います。会の前に体調確認(発熱等の確認)、会の前後に手洗いかアルコール消毒、マスク着用すればと思いますが如何でしょうか。また今回のコロナに関して、是非、みなさんの意見を聞いてみたいとも思っています。感染症はまた、必ず来ます。私ごとで恐縮ですが、30代、アフリカへ長期出張をしておりました。一年に100日から200日はアフリカでした。手洗い励行、水に注意、水に注意、生野菜は食わず、コースターは下にひかずコップの上に被せる、日に何度もシャワーを浴びる、蚊やハエに注意など、かなり気を使っていたのですが、必ず1回は下痢症状に悩まされていました。実感として感染症はかなり怖いと思っておりますし侮れませんが、リスクを少しでも抑えて生活・仕事をすべきであると思っております。余談ですが、下痢は持参した薬で毎回治っていましたが、酷い場合に備えて、使い捨ての注射器を何本か持参していました。注射器を持って医者にかかるなど日本では想像できないですね。またマラリアの薬も定期的に飲んでいました。私は、千葉県いすみ市にて、独居している認知症の父を遠隔介護しております。4月にはどうしても訪問する必要があり、一度、相模原市在住の妹と一緒に訪問してきました。これ以外では、デイサービスセンターの職員さんに、色々と普段以上にお世話になっている状況です。皆さん大変ご苦勞されています。今回は、車の前後に座り、常に換気し、会話少なく、途中の休憩はトイレのみ、我々が触ったところはアルコール消毒、父との面談はできるだけ短時間、デイの職員さんとも打ち合わせは、2メートル以上離れて、定期的な病院受診では、家族が代理受診して処方箋を受領してきました。妹が住む相模原市は、コロナ関係では結構ホットな場所(最初の死亡者が出た市で、区単位になりますが、感染者の居住地についても情報提供されています)であり、訪問したいいすみ市と病院は、ダイヤモンドプリンスに派遣されたDMATの医療関係者が感染して、治療を受けていたところ(第二種感染症対応施設)ですので今回は色々と気を使いました。今回、幸いにして、父にも家族にも感染等はなく、ホッとしています。

#### 【社会福祉課】

御意見をいただきましたとおり、本年度は4つの計画改定があり、本来ならば一堂に会する委員会を開催し“双方向での意見を交わす機会”を設けたいところです。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症等のリスクを回避するためにも、「福生市における新型コロナウイルス感染症対策について」に則り、当面の間は書面開催せざるを得ない状況にあります。引き続き、書面開催の委員会においては「質問・意見書」を通じて、委員皆様からの意見や質問等を提出していただきますよう、お願いいたします。

なお、感染者が減少し、安全が見込まれる状況になりましたら、感染防止対策を行い、会議を開催いたします。

4つの計画を改定するにあたって、それぞれの計画によっては進捗等に差が出てくるため、委員会開催のタイミングが合わない事態も想定しております。場合によりましては、委員の皆様を担当していただく計画ごとに分かれていただき、分科会を開催することも考えております。その時は改めて日程等を調整させていただきますので、御了承ください。

<p>③ 今後の検討課題や意見について</p> <p>1) 意見として、前回の調査と比べて特徴的なことは何かについて言及して欲しいという意見があるのでどう考えるか。</p> <p>2) コロナへの対応は福生市の住民にどんな影響を与えるのか(しかしこの事は、この推進委員会で話し合う事なのか?)、福生市の今後の福祉施策の策定にどう反映させていくのかは、この委員会での論議が必要かどうかを委員会として話し合う必要があると思います。(コロナは、ワクチンや薬の開発と日常生活の変容との関係があり、まだ情報が不足しています。その事を加味して論議することがどうなのかは疑問です)</p>	<p>1)【障害福祉課】</p> <p>前回の生活実態調査と比べて変化があった主なものですが、問16の「現在、利用しているサービス量は充分だと思いませんか。」は、「充分である」との回答が前回調査の12.1%に対して26.5%と上昇しております。例えば、平成27年度の障害児通所支援の支給決定者数は48人、延べ利用日数は3,898日に対して、令和元年度は支給決定者数86人、延べ利用日数は9,252日と利用が拡大しております。その他の多くのサービスにおいて利用が拡大していることから、調査結果に表れたと考えられます。</p> <p>また、問18の「障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。」は、「特にない」との回答が身体障害者では前回調査45.6%に対して74.7%と上昇しております。知的、精神、難病においても同様に上昇しております。これは、障害者差別解消法が施行されたことや、これに伴い障害者差別解消及び障害者理解促進の取り組みが進められたことによるものと考えられます。</p> <p>【介護福祉課】</p> <p>高齢者生活実態調査の前回からの変化は、要介護認定がある方の介護者の「仕事と介護の両立」についての設問です(65ページ)。「自営業・フリーランスのため勤め先はない」の回答が6.9%から23.1%に伸びております。</p> <p>介護保険事業計画は3年毎に策定しており、地域の実情に合わせて課題を検討しております。高齢者が住み慣れた地域で生活を継続をすることができるように引き続き「地域包括ケアシステム」の深化が課題となっています。</p> <p>【社会福祉課】</p> <p>毎年、各計画に則りながら事業を執行し、進捗管理及び点検・評価、改善・見直しをPDCAサイクルに沿って実践しております。しかしながら、調査結果は市民の方の生活状況等の実態を表しておりますので、調査結果を参考にして次期計画に反映してまいります。また、調査結果に変化がない質問では、課題ととらえ、委員の皆様にご意見をいただき、実施にあたりましては、施策や事業の選択と集中により充実に努めてまいります。</p> <p>2)) 現在、専門家の方々がこのウイルスの研究や把握に努めている段階ですので、現時点での認識となりますが、治療薬やワクチンが開発されますと、インフルエンザと同様の認識となり、生活もある程度元に戻ると思われます。</p> <p>また、介護や医療の現場においては、AIやロボット、インターネットを活用した取組が増えていくことも予想されます。</p> <p>一方で、高齢者、障害者をはじめ誰もが、これらの利便性を享受しながらも、地域の中で活動やつながりによって生きがいや幸せを得られるということには変わりはないと考えております。このため、各計画の方針は変更となるものではなく、その手段の選択肢が広がるもので、次期計画に感染症による影響は少ないと考えております。</p>
---	---